

## ステークホルダーの皆様へ

中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G”」の初年度となった2010年度は、前期に比べ増収増益となりました。

当社グループのグローバル展開は着実に推進されており、中長期経営ビジョンの実現に向けて、大きく前進しています。



代表取締役社長 佐藤 廣士

### はじめに

本年3月11日に発生した東日本大震災による犠牲者の方々に、深く哀悼の意を捧げるとともに、被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。当社グループでは、アルミ板を製造している栃木県の真岡製造所をはじめとして、東日本に複数の拠点がありますが、いずれにおいても主要設備に致命的な被害は発生しませんでした。しかしながら、取引先の多くの企業においては直接的な被害を受けており、結果として生産に少なからず影響が出ております。当社グループは、1995年に発生した阪神・淡路大震災で被災しましたが、その際に多くの方々からご支援を賜り、復興を遂げることができました。被災を経験した企業として、被災地への支援はもとより、様々な製品や技術の提供を通じて、社会のニーズに的確に応えることで、少しでも復興のお役に立ちたいと考えております。

### 2010年度の業績の概況

経済全般については、各国における景気刺激策の効果もあり、中国をはじめとする新興国経済が拡大するとともに、日米欧の先進国経済についても緩やかな回復傾向が継続しました。このような環境のもと、当社グループにおいては、国内外

における製造業向けの需要が堅調に推移したことなどにより、鋼材やアルミ・銅圧延品の販売数量が前年度の水準を上回りました。また、油圧ショベルの販売台数は、中国における需要が拡大したことなどから、前年度を大きく上回りました。この結果、連結売上高は前期比1,875億円増の1兆8,585億円となりました。一方、連結経常利益につきましては、鉄鋼原料価格の上昇による影響を受けましたが、販売数量の増加やコストダウンの取り組み等により、788億円増の890億円となりました。尚、東日本大震災による業績への影響は、生産が減少したことによる機会損失も含め、連結経常利益ベースで△30億円程度でした。

### 中長期経営ビジョンの進捗と今後の課題

当社グループは、昨年公表した中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION “G”」に掲げた企業像の実現に向けて、着実に施策を遂行しております。「KOBELCO VISION “G”」においては、「成長市場への進出深化」を推進することが一つの柱となっておりますが、セグメントごとの主な取り組み状況は以下のとおりです。

#### 鉄鋼事業部門

- ▶ 米国におけるUnited States Steel Corporation社との合併拠点で、新たに自動車用冷延ハイテンの製造を開始することを決定いたしました。また、今後は同様の案件で他の地域への展開も図ってまいります。
- ▶ 鉄・資源海外企画部を新設し、資源・エンジニアリング事業部門が有する還元鉄の技術を活用する案件の検討を進めてまいります。
- ▶ チタンの分野では国内に新会社を設立し、国内初となる能力5万トン級の最新鋭大型鍛造プレスを導入することを決定いたしました。世界で拡大が見込まれる航空機向けのチタン大型鍛造材の需要を取り込んでまいります。

#### 溶接事業部門

- ▶ インド、韓国において販売会社を設立いたしました。
- ▶ 中国においては、既存の製造拠点で能力増強を実施いたしました。今後の更なる能力増強に加え、他の地域での展開についても検討を進めてまいります。

#### アルミ・銅事業部門

- ▶ 中国に自動車サスペンション用のアルミ鍛造部品の製造・販売会社を設立いたしました。
- ▶ 今後は、他のメニューも含めて、アジアを中心に海外展開を図ってまいります。

#### 機械事業部門

- ▶ 中国と北米の圧縮機の製造拠点において能力増強をいたしました。また、中国の圧縮機メーカーへの出資を行いました。
- ▶ インドにおいてタイヤ・ゴム機械の製造・販売会社を設立いたしました。
- ▶ 今後は、南米への進出についても検討を進めてまいります。

#### 資源・エンジニアリング事業部門

- ▶ 当社が開発した新製鉄法であるITmk3®(アイティ・マークスリー)の商業1号機が、米国ミネソタ州で昨年稼働を開始いたしました。現在、これに次ぐ案件として、ベトナムやインドなどにおいても検討を進めております。

#### 神鋼環境ソリューション

- ▶ ベトナムに現地法人を、インドに合併会社をそれぞれ設立いたしました。今後、両拠点を核として水処理を中心としたビジネス展開を図ってまいります。

- ▶ 欧州においては、高効率廃棄物発電施設のマーケティングを推進してまいります。

#### コベルコ建機

- ▶ インドに製造拠点を新設し、生産を開始いたしました。
- ▶ 今後、各地域の需要の伸張に合わせて、各拠点の能力増強を実施してまいります。
- ▶ 全世界の生産、開発を統括する拠点として、広島にGEC(グローバル・エンジニアリング・センター)を新設し、世界戦略を推し進めてまいります。

#### コベルコクレーン

- ▶ インドと中国において製造拠点の新設を決定し、現在建設を行っております。今後は、現地調達化の推進などにより、競争力の強化を図ってまいります。

各事業で培った独自の技術やノウハウを活かして、また事業間での技術やノウハウの融合を進め、特徴ある技術・製品・サービスを提供できることが、当社グループの強みでもあると考えております。今後もこの強みを活かして、成長地域や成長分野において拡大する需要を着実に取り込み、グローバル市場において存在感のある企業グループを目指してまいります。

#### おわりに

当社グループは、株主の皆様への還元の充実は、重要な経営課題のひとつであると考えております。配当については、継続かつ安定した実施を基本としつつ、具体的な配当額は、業績や配当性向、将来の成長のために必要な投資資金、財務体質の状況などを総合的に勘案し決定することとしております。尚、基準とする配当性向につきましては、当面、連結純利益の15%~25%程度を目安としております。当該方針に基づき、2010年度につきましては、中間および期末ともに1株当たり1円50銭の配当を実施いたしました。

当社グループは、今後も独自の技術・製品・サービスの提供を通じて、社会に貢献してまいります。引き続き、ご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年7月  
代表取締役社長

佐藤 廣 士